

第5回恒例3月シンポジウム「川の地域連携と人づくり」

2013年3月16日(土)、初夏のような温かい日差しの中、第5回恒例3月シンポジウム「川の地域連携と人づくり」が、早稲田リサーチパークコミュニケーションセンターで開催されました。

市民、藤田小学校の5年生と引率の先生方やご父兄、高校生のNPO特別会員、早稲田大学本庄高等学院生、吉田信解本庄市長を始めとした行政関係の方々など約80名にご参加いただきました。

真下恵司 NPO 法人 川・まち・人プロデューサーズ代表理事の開会挨拶、吉田市長からの来賓のご挨拶に続き、早稲田大学助手で工学博士アンドレ・ロドリゲス・ドス・レイス氏による基調講演「海外留学の経験により自分の成長はどうか？」でシンポジウムの幕は切れて落とされました。アンドレさんは、早稲田大学理工学術院榊原研究室に所属し植物による環境ホルモンの浄化の研究を進めて来ましたが、植物が環境ホルモンを継続的に蓄積できることを世界で初めて突き止めた功績が認められ、母国ブラジルの大学へ准教授として迎えらるることになっております。小学生にも分かりやすくそして飽きることがないよう写真をふんだんに使った基調講演を流暢な日本語で行なっていただき、地域の小学生、高校生たちに若者が持つ無限大の可能性と研究生生活の素晴らしさをお伝えいただきました。その後、

事例発表：「河川を通じた高校生の地域連携とその効果」(早稲田大学本庄高等学院教諭 峰真如)

研究発表：「ヘチマを使った水質浄化研究 2012」(NPO 特別会員)

活動報告：「H 2 4 年度の魚類調査活動のまとめ」(本庄市立藤田小学校 5 年生)

研究発表：「河川における『早稲田式』マイクロ水力発電の実用化の試み」(早稲田大学本庄高等学院 SSH 河川研究班)

事例発表：「河川調査活動の教育的効果」(本庄市立藤田小学校教務主任 竹内裕)



真下代表理事開会挨拶



吉田本庄市長の来賓挨拶



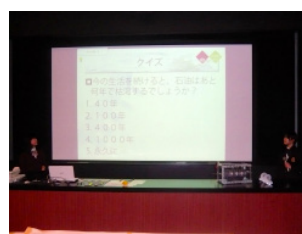
貴重講演のアンドレ先生



NPO 特別会員チーム SHIUSU



藤田小学校 5 年生



早稲田大学本庄高等学院 SSH 河川研究班

と続き、途中で NPO 法人環境生態工学研究所理事長で小山川・元小山川地域協議会会長須藤隆一先生のビデオメッセージを交えてプログラムは進みました。「川の地域連携と人づくり」のテーマの通り、多彩なプレーヤーで進められている本庄地域の独特な活動は、他地域から参加された方にも深い印象を与えたようで、「川を通していろいろなつながりが生まれ、いろいろな活動が実践されている様子

がよくわかりました。一つひとつの話が楽しく、時間があっという間でした。」という感想も聞かれました。

榊原副代表理事(早稲田大学理工学術院教授)からの講評の後、発表いただいた参加者全員に、今までの実績に敬意を評し、同時に、今後の成長・発展を願い、表彰状・感謝状が手渡されました。藤田小学校との連携を推進し地域の人材作りに貢献頂いている本庄高等学院峰教諭、地域の「川ガキ再生」に精力的に取り組んでいる藤田諸学校竹内教諭には真下代表理事より、調査・研究活動を行なっている若い研究者達には榊原副代表理事より授与させていただきます、無事にシンポジウムを閉会することができました。

最後になりますが、シンポジウム開催に当たりご後援いただきました埼玉県本庄県土整備事務所、本庄市、本庄市教育員会、準備段階からご協力いただいた早稲田大学本庄高等学院、本庄市立藤田小学校、埼玉県環境科学国際センターをはじめとする多くの皆さまに厚く御礼申し上げます。



本庄高等学院峰教諭 (地域連携賞)



藤田小学校竹内教諭 (優秀指導者賞)



藤田小学校 5 年生 (ムサシトミヨ賞)



早稲田大学本庄高等学院 SSH 河川研究班 (研究奨励賞)



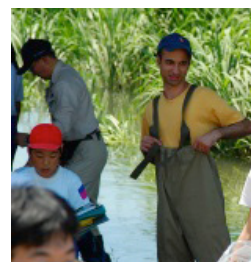
NPO 特別会員チーム SHIUSU (研究奨励賞)

【シンポジウム総括】 アンドレ先生と NPO 特別会員の交流を通して

アンドレ先生(?)が5年前に来日した頃、藤田小学校で総合的な学習の時間を使った魚類調査が開始されました。今は、本庄高等学院が中心となり小学生の指導を行なっていますが、当時は早稲田大学理工学術院の榊原研究室が活動を主導していました。アンドレ先生は来日直後、研究室の仲間にもわけも分らないまま魚類調査に連れだされ、当時の小学生と一緒に小山川や元小山川に入り魚類調査を行う事になってしまったのですが、その時の小学生が今の NPO 特別会員(高校1年生)。そんな彼らとはシンポジウムの席上で5年ぶりの再会。立派な?高校生に成長し「ヘチマを使った水質浄化研究」を行なっている姿に感慨もひとしおだったようです。分野は違えど同じ「植物浄化」を研究する仲間として再会を喜び、互いの研究の益々の発展を誓っていました。

アンドレ先生には特別会員の研究だけでなく、本庄高等学院生の研究発表、藤田小学校の調査発表にも高い評価をしていただきました。4月には母国ブラジルに帰国されますが、「いつの日か地球の反対側同士で本庄地域の若者たちと共同研究をしたい。」と夢を語ってくれました。「人と川との関係性の再構築を」キーワードに、人材育成や地域連携活動を推進してきた当 NPO ですが、アンドレ先生から第三者としての意見を伺い、また、シンポジウムの質疑応答でアンドレ先生からいただいた「どうして、NPO の人たちは小学生や高校生の活動を一生懸命支援しているのですか?」という質問を通して、今日まで推進してきた活動の方向性に間違いはなかったと確認することができたことを、今回のシンポジウムの総括とさせていただきます。

今後も当 NPO の活動へのご理解をいただき、ご指導・ご協力のほどよろしお願い申し上げます。



来日直後のアンドレ (元小山川)



特別会員の小林くんと